

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2025年 5月 26日

(宛先)
滋賀県知事

提出者
住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)
滋賀県甲賀市水口町水口6776番地

氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)
朝日アグリア株式会社 関西工場
関西工場長 浦井 晋

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項 → 第25条第4項
第27条第1項 → 第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、
[事業者行動計画を策定 (変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	朝日アグリア株式会社 代表取締役 中村 紀之
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	本店 埼玉県児玉郡神川町渡瀬222番地

1 事業所の概要

事業所の名称	朝日アグリア株式会社 関西工場					
事業所の所在地	滋賀県甲賀市水口町水口6776番地					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	6	1	2	※ 産業分類・細分類名称を記載 複合肥料製造業
事業の概要	肥料製造・販売					
従業員の数	28	人	作業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	台	熱源設備	台	照明設備	96 台
	コンプレッサ	2 台	空気調和設備	台	その他	電動モーター管理:19機

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2024	年度	報告対象年度	2024	年度
	終了年度	2026	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

- 1.朝日工業グループ経営理念
「誠実で、公正、公平、誰からも愛される会社であり続けます。
良い製品、良いサービスを提供し、地球環境へ貢献し続けます。」
- 2.朝日工業グループ環境指針
「環境負荷軽減、地球温暖化防止、ゼロエミッションを通して、環境へ貢献します。」
- 3.朝日アグリア株式会社 環境ISO14001環境方針
別紙1を参照下さい。

2 取組の推進体制

- 1.朝日アグリア株式会社エネルギー管理体制
別紙2を参照下さい。
・社内規定として、省エネ法、関係条例等に準ずるためにエネルギー管理規定を制定し省エネルギー及び低炭素の取り組みにかかわる管理体制を整備。管理体制に基づき、省エネルギー及び低炭素の取り組み対応を、主に省エネルギー推進委員会で審議し取り組み状況を管理する個々の事業場、向上で各事項の対応共有を図る。

また、省エネルギー及び低炭素の取り組みに関わる社員の環境意識の醸成を目的に環境に関わる社内講習会を定期的に行い、人事制度で環境に関わる通信教育の受講または、商工会議所が主催する環境社会検定試験の合格を昇格案件にしている。

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

- 1.エネルギー監視システムを導入(2010年12月設置)
生産ラインの各所のエネルギー使用量を把握し、効率改善、ムダの排除を行い、エネルギーの削減、エネルギー原単位の低減を実施。
- 2.生産銘柄別の原料特性、生産性を把握管理し、生産性の向上、最適化を図り、エネルギーの削減に繋げる。
- 3.エネルギー管理標準書を整備し、標準書に則る運用を行い、生産効率、エネルギーの最適化を図り、エネルギーの削減に努める。
- 4.コンプレッサー圧力設定の見直し及びエアリーク箇所の修繕を行いコンプレッサー負荷の低減
- 5.大容量モーター設備のインバーター化による電力量低減
- 6.工場水銀灯をLED照明に取替を行い電力量低減
- 7.燃料転換(再生油→LPG)を2019年1月に実施し、二酸化炭素排出量抑制に取り組む
- 8.超高効率トランスへの変更による電力量低減

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	新規設備導入による生産性向上	2024年度	新規搬送設備導入によりチャージ量増
2	設備導入	新規設備導入による電力原単位改善	2024年度	高効率モーター導入により省エネ効果あり
3	設備導入	新規設備導入による燃料原単位改善	2024年度	加熱炉更新によりエネルギー消費削減
4				
5				

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・新規設備導入により、原料チャージ量増加が出来る事から、生産性向上稼働率向上が見込める。また、併せて電力原単位、燃料原単位低減も見込める。 ・目標設定について 2024年度より下記の計算式によりエネルギー原単位を1%以上低減を目標にし、CO₂排出量のていげんにつなげる 原油換算エネルギー使用量 / 生産量 = エネルギー原単位 	<p>2024年度実績: 1,505kL/24,989t =60.23 (前年実績62.87)</p> <p>乾燥設備更新等の設備改善により 前年より良化</p>

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告				
		(2024)年度	(2025)年度	(2026)年度	()年度	()年度
原油換算エネルギー使用量	kL	1,704	1,505			
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	3,586	3,306			
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	3,586	3,306			
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0	0			
CH ₄	t-CO ₂					
N ₂ O	t-CO ₂					
HFCs	t-CO ₂					
PFCs	t-CO ₂					
SF ₆	t-CO ₂					
NF ₃	t-CO ₂					
エネルギー等原単位の推移						

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	予定なし		
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	予定なし
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
		()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh					
上記のうち自家消費量	kWh					

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
1.未利用資源の肥料原料化、有機質肥料の生産量拡大 有機質肥料は、人の生活により廃棄される物(主に動植物有機物、人の食で不必要となる廃棄残渣等)である。これらは、廃棄後に燃料等を使用し焼却処理がされる物である。当社では、これらの廃棄されるものを再利用し、有機肥料原料として開発し原料として使用している。 また、既存に流通する有機質原料(油かす、魚粕等)も食の残渣や人の生活により消費残渣となった物であり、焼却廃棄を行わず利用するため、温室効果ガス排出の抑制に寄与するものと位置付ける。	・畜糞堆肥使用銘柄の検討設定： 新規銘柄：7銘柄 ・新規発生場所の探索： 4箇所検討 → 新規取扱にならず (当社受入基準に満たず) ・廃棄処分になる肥料の買取及び使用 購入実績：36.28t
	CO ₂ 削減貢献量
	t-CO ₂

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方		
1.未利用資源の有効活用による天然資源活用の拡大		
2024年度 目標値	2025年度 目標値	2026年度 目標値
堆肥年間使用量 1,700t (前年対比+26.4%)	堆肥年間使用量 1,900t (前年対比+11.8%)	堆肥年間使用量 2,100t (前年対比+10.5%)

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO₂削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
前年度に引き続き、未利用資源の有効活用として畜糞堆肥を積極的に使用し生産活動を実施するも、販売数量の減となった事により、目標未達となる。
2024年堆肥年間使用量：1,335t
CO ₂ 削減貢献量の算出根拠

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告					
			(2024)年度	()年度	()年度	()年度	()年度	
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂	3,586	3,306					
エネルギー起源CO ₂ 【調整後排出係数】	t-CO ₂	3,744	3,306					
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh	0.434	0.423					
特記事項								

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告					
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度	
グリーン証書の購 入	t-CO ₂							
クレジットの購入	t-CO ₂							
特記事項								

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1				
2				
3				

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	項目	単位	計画開始年 度前年度の 保有台数	実績報告				
				()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
	保有車輛の数	台						
	上記のつち 次世代自動車等の 数	台						
特記事項								

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1		朝日工業のグループ全体で2030年度に2013年度対 比51%以上削減(各年度の電力排出係数を用いる)	~2030年	-
2	3R	朝日工業グループの中期環境行動計画で設定 ゼロエミッションの推進:廃棄物の再資源化及び有効利 用化を99.5%以上	2024年度	99.90%
3				
4				
5				